名　誉　会　員

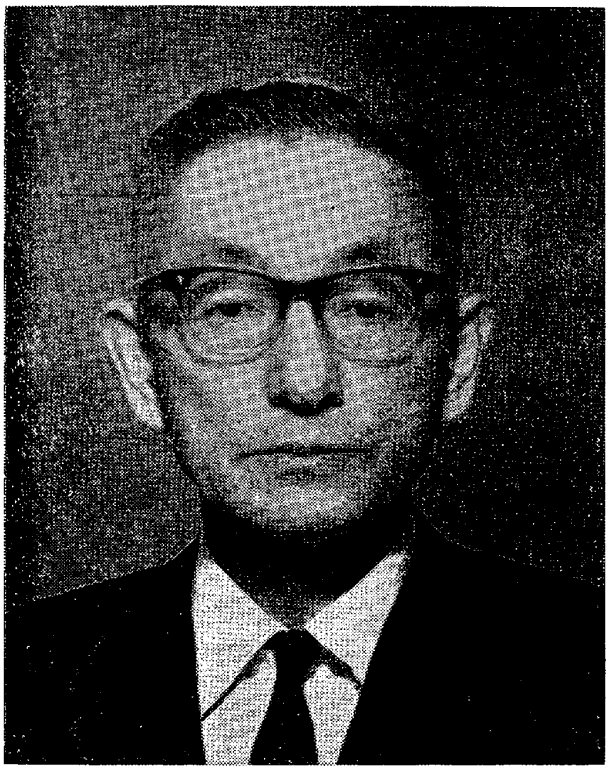
稲　山　嘉　寛君

明治 37 年 1 月 2 日生まれの氏は，昭和 2 年 3 月東京帝国大学経済学部商業学科卒業後，ただちに官営八幡製鉄所に勤務，販売・営業関係業務に従事し，昭和 21 年本社営業部長に就任．昭和 25 年八幡製鉄株式会社常務取締役になられ，昭和 34 年八幡製鉄株式会社代表取締役副社長を経て，昭和 37 年八幡製鉄株式会社代表取締役社長に就任，現在にいたるまでその重責を果たしている．

この間昭和 22 年には鋼材クラブ理事長となり，昭和 40 年経団連資本対策委員会委員長に選出されさらに日本鉄鋼連盟会長，日本鋼構造協会会長として現在にいたるまでその重責を担い，鉄鋼業界の主柱として多方面に幅広い活躍を続けている．

また昭和 37 年には藍綬褒賞を受賞している．

名　誉　会　員



湯　川　正　夫君

大正 15 年3月東京帝国大学工学部冶金学科を卒業した氏は，ただちに官営八幡製鉄所に勤務し，昭和 21 年八幡製鉄所本社技術部長となつた．この間圧延関係の業務に従事，昭和 25 年に同社常務取締役，昭和 28 年八幡製鉄所技師長となり同社の技術向上に努めた．昭和 33 年に日本ウジミナス株式会社顧問，昭和 37 年には代表取締役副社長に就任，現在にいたつている．一方昭和 31 年デミング賞委員に選出され，昭和34年日本金属学会副会長，昭和39年日本鉄鋼協会会長となり，その間イギリス，ドイツ，ラテン・アメリカ鉄鋼協会名誉会員に推挙された．

本会に関しては昭和 29 年から昭和 34 年まで評議員として活躍し，昭和 39 年から2年間会長の重責を果たし，昭和 22 年には本会より香村賞を，昭和 40 年には製鉄功労賞を受賞した．このほか氏は昭和 38 年に藍綬褒賞を受賞している．

名　誉　会　員

Einar Louis AMEÉN (Sweden)

Ameén 氏は 1901 年ストックホルムに生まれた．1926 年国立技術大学を卒業後 Norsk Staal A. S. に入社，主任技師として活躍し，1940 年まで Uddeholms A. B. の研究所において，特にステンレス鋼の研究を行なつた．

Söderfors Bruh の重役を経て，1947 年には Surahammars Bruks A. B. の社長となり昨 1966 年までこの重責にあつた．1949 年に，スエーデン鉄鋼連盟会員，1950 年にはスエーデン鉄鋼協会会員となり，1960 年には国立科学アカデミー会員に選ばれた．1956 年から 1966 年までスエーデン鉄鋼協会共同研究会議長の職にあり，1964 年からはストックホルム金属協会議長をつとめている．氏はスエーデン鉄鋼協会大会において冶金学に関する種々の論文を発表しているかたわら Vasa 2 等勲章も授与されている．また鉄鋼業視察のために米国，ソ連，ヨーロッパ名国を訪れ 1962 年，1966 年には日本も訪れている．

名　誉　会　員

Aleksandr Mikhaĭlovich SAMARIN (U.S.S.R.)

1902 年生れの氏は，ニジェゴロド国立大学予備校を経て，1930 年にモスクワ鉱山高等専門学校を終了，鋼・合金鉄電気冶金専門冶金技師の名称を得た．

最初の研究は合金鉄製造技術の開発と国産化に関したもので，1930～1932 年にはチェリヤビンスクのソ連最初の合金鉄工場で研究の指導に当たつた．

研究成果は "合金鉄" (1934)，"電気冶金・鋼の製造" (1943)，"溶鋼脱酸の物理・化学的基礎" (1958) および "溶鋼の真空処理" (1960) などのなかに一部が記述されている．また非金属介在物の低い鋼の製造を保証する鋼および合金鉄の脱酸方式や，溶鋼の真空処理法を提案し，また鉄鉱石からするバナジウム抽出工程の研究を完了した．近年は冶金反応の熱力学関数を確立するほか，溶融メタルの諸性質の研究が拡大されている．

1937 年から 1962 年までモスクワ鋼研究所の鋼・合金鉄電気冶金講座を指導し，1939 年からはソ連科学アカデミー付属 A. A. バイコフ記念冶金研究員となつた．

現在では，冶金研究所の指導に当たり，ソ連邦閣僚会議科学技術国家委員会委員として活躍しいる．1966 年にソ連科学アカデミー会員に選ばれ，さらにベルリンのドイツ科学アカデミー会員，ハンガリー科学アカデミー名誉会員，ポーランド科学アカデミーに選出され現在にいたつている．